

資料

資料 1

令和2年度「人権に関する市民意識調査」の概要

資料 2

主な人権関係法

資料 3

主な人権条約

資料 4

用語解説

資料 5

指針改訂に関わる協力団体等一覧

令和 2 年度「人権に関する市民意識調査」の概要

1 調査概要

(1) 調査の目的

市民の人権に関する意識、行動等を明らかにし、今後の横浜市の人権に関する様々な取組をより効果的に進めていくために、人権に関する市民の意識調査（アンケート）を実施する。

(2) 調査方法

- ◇ 調査対象 横浜市在住の 18 歳以上の男女 5,000 人を、横浜市が住民基本台帳から無作為に抽出
- ◇ 調査方法 郵送による配布、郵送・インターネットによる回収及び回答（ハガキによる礼状兼督促状を 1 回送付）
- ◇ 調査期間 令和 2 年 7 月 31 日（金）～ 8 月 21 日（金）

(3) 調査項目

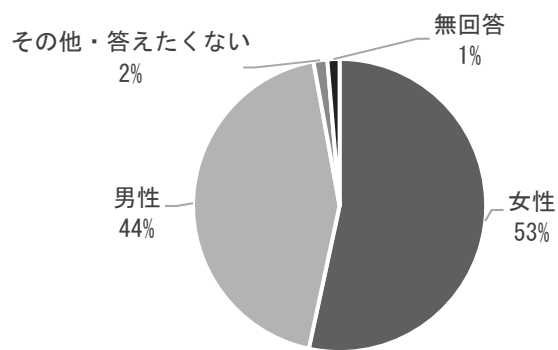
- 全 40 問（枝問を含めて 46 問）
- 人権や差別について（問 1～9）
- 同和問題について（問 10～16）
- 人権問題に対する課題や施策について（問 17～33）
- 人権啓発活動について（問 34～40）

(4) 回収結果

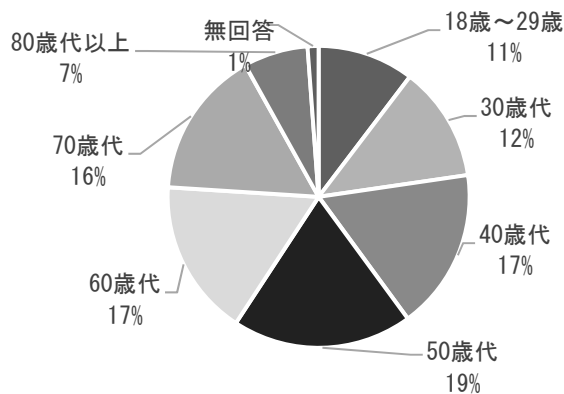
有効回収票数	2,301 票（有効回収率 46.0%）
うちインターネット回答	532 票
外国籍市民	11 票

(5) 回答者の属性

- ◇ 性別
 - 女性 1,228 人
 - 男性 1,007 人
 - その他・答えたくない 35 人



- ◇ 年齢
 - 18 歳～29 歳 238 人
 - 30 歳代 284 人
 - 40 歳代 397 人
 - 50 歳代 444 人
 - 60 歳代 386 人
 - 70 歳代 366 人
 - 80 歳以上 159 人



2 結果抜粋

《集計にあたって》

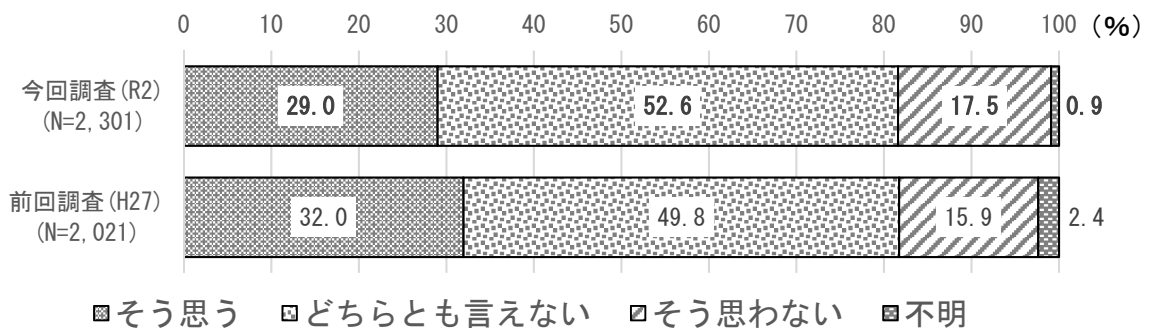
単純回答の設問の場合、回答者割合の%値は小数点第2位を四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

◆ 今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会か

今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会だと思うかを尋ねたところ、「どちらとも言えない」が52.6%と最も多く、次いで「そう思う」が29.0%、「そう思わない」が17.5%と続いている。

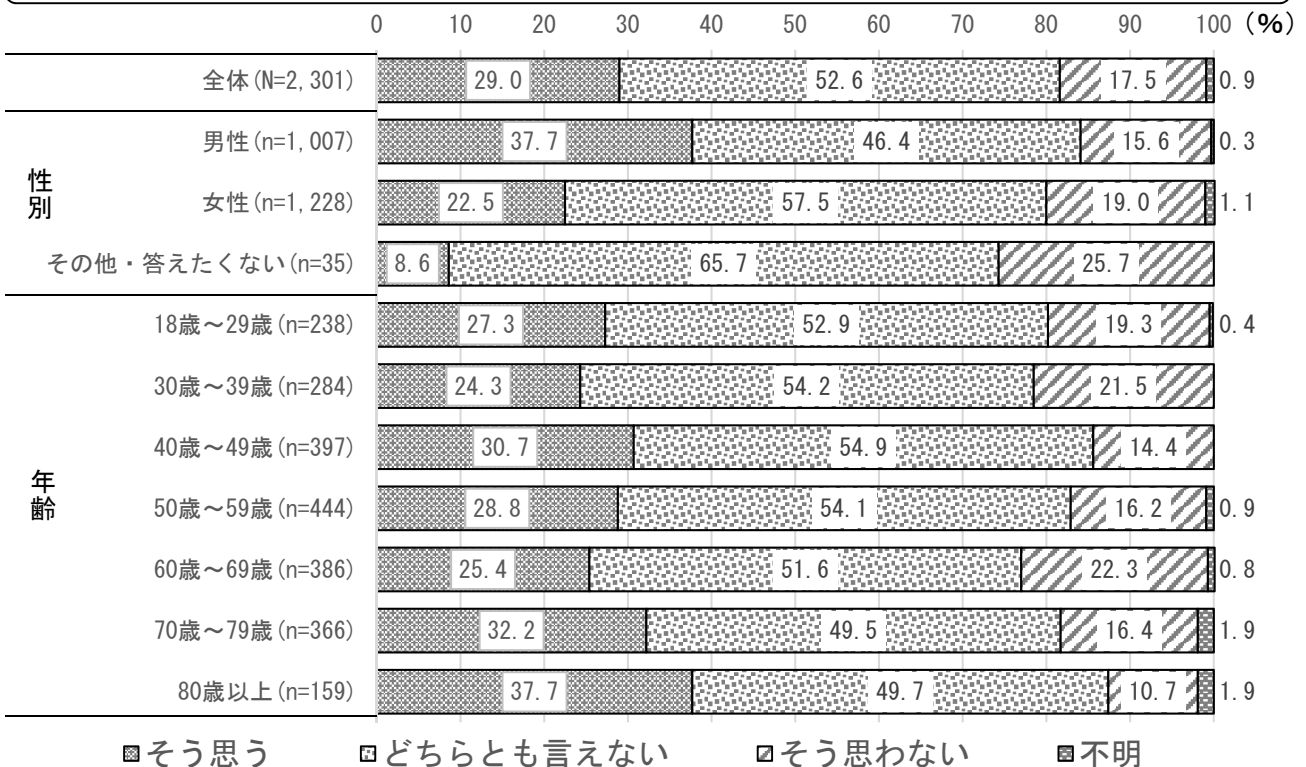
前回調査と大きな傾向の差は見られない。

図Ⅱ—2—1 今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会か



性別で見ると、「そう思う」については女性より男性がおよそ15ポイント高い一方で、「どちらとも言えない」については男性より女性がおおよそ11ポイント高くなっている。年齢別で見ると、年齢によってばらつきがある。

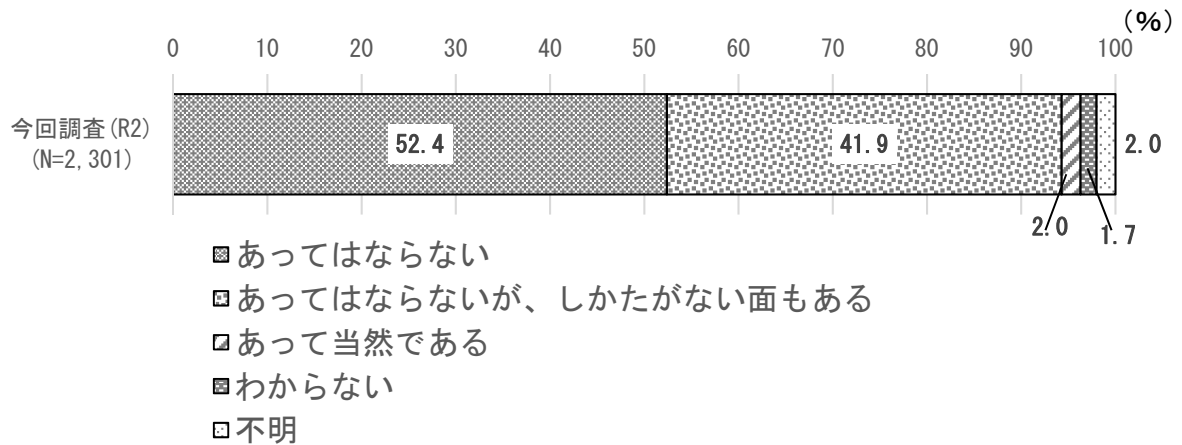
図Ⅱ—2—2 今の日本は「基本的人権」が尊重されている社会か(性別・年齢別)



◆ 差別についての認識

差別についての考えを尋ねたところ、「あってはならない」が52.4%と最も多く、次いで「あってはならないが、しかたがない面もある」が41.9%と続いている。「あって当然である」は2.0%となっている。

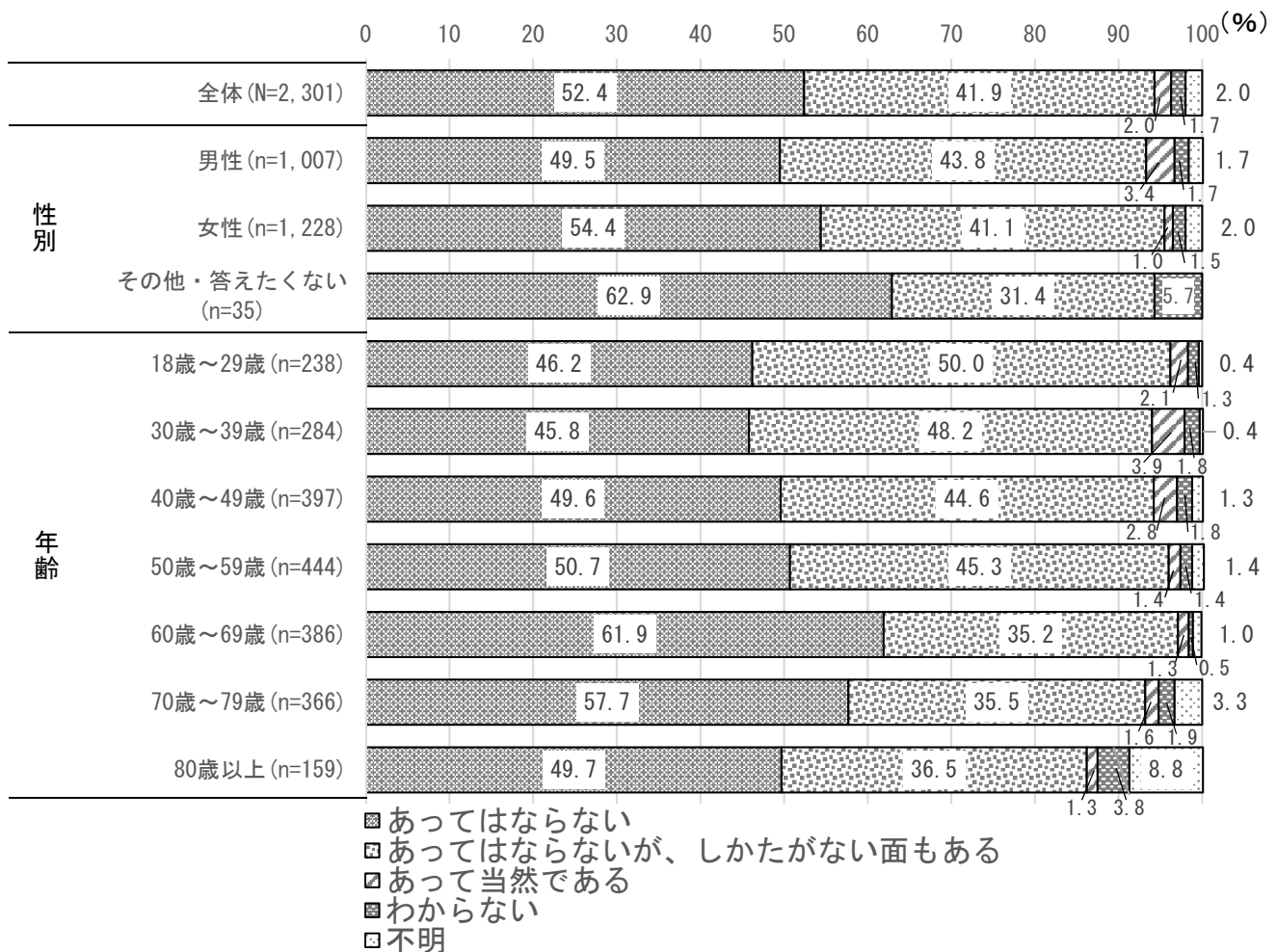
図Ⅱ—4—1 差別についての認識



性別では、大きな傾向の差は見られない。

年齢別で見ると、おおむね年齢層が高いほど「あってはならない」が多い傾向にある。

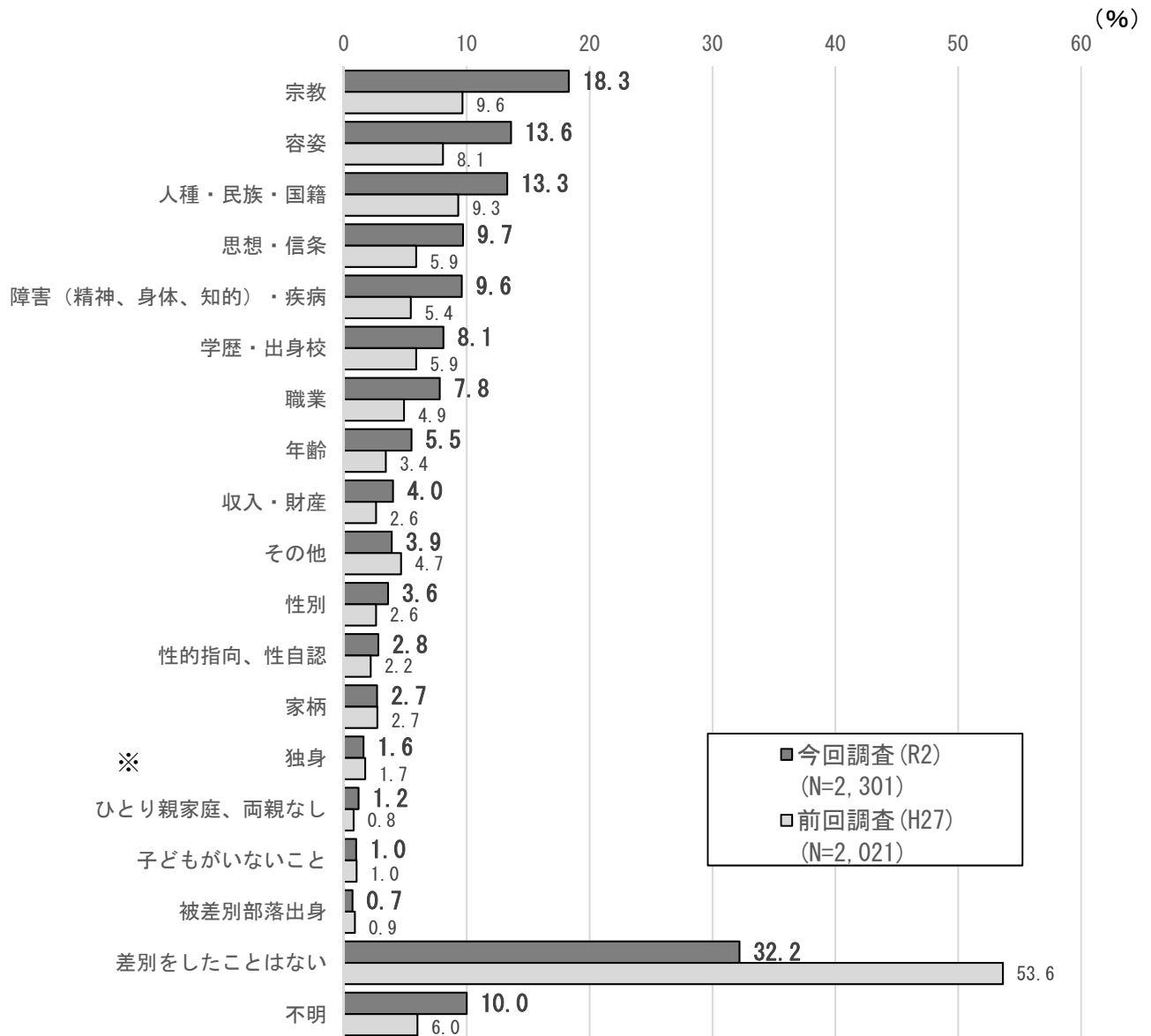
図Ⅱ—4—3 差別についての認識(性別・年齢別)



◆ 差別した経験

自分がこれまでに、他人を差別したことがあるか、ある場合、何について差別したことがあるかを尋ねたところ、「差別をしたことはない」が32.2%となっており、前回調査よりおよそ21ポイント減少している。差別したことがある場合は、「宗教」が18.3%と最も多く、次いで「容姿」が13.6%、「人種・民族・国籍」が13.3%と続いている。

図Ⅱ—5—1 差別をした経験[複数回答]



※ 前回調査では「いわゆるLGBT」

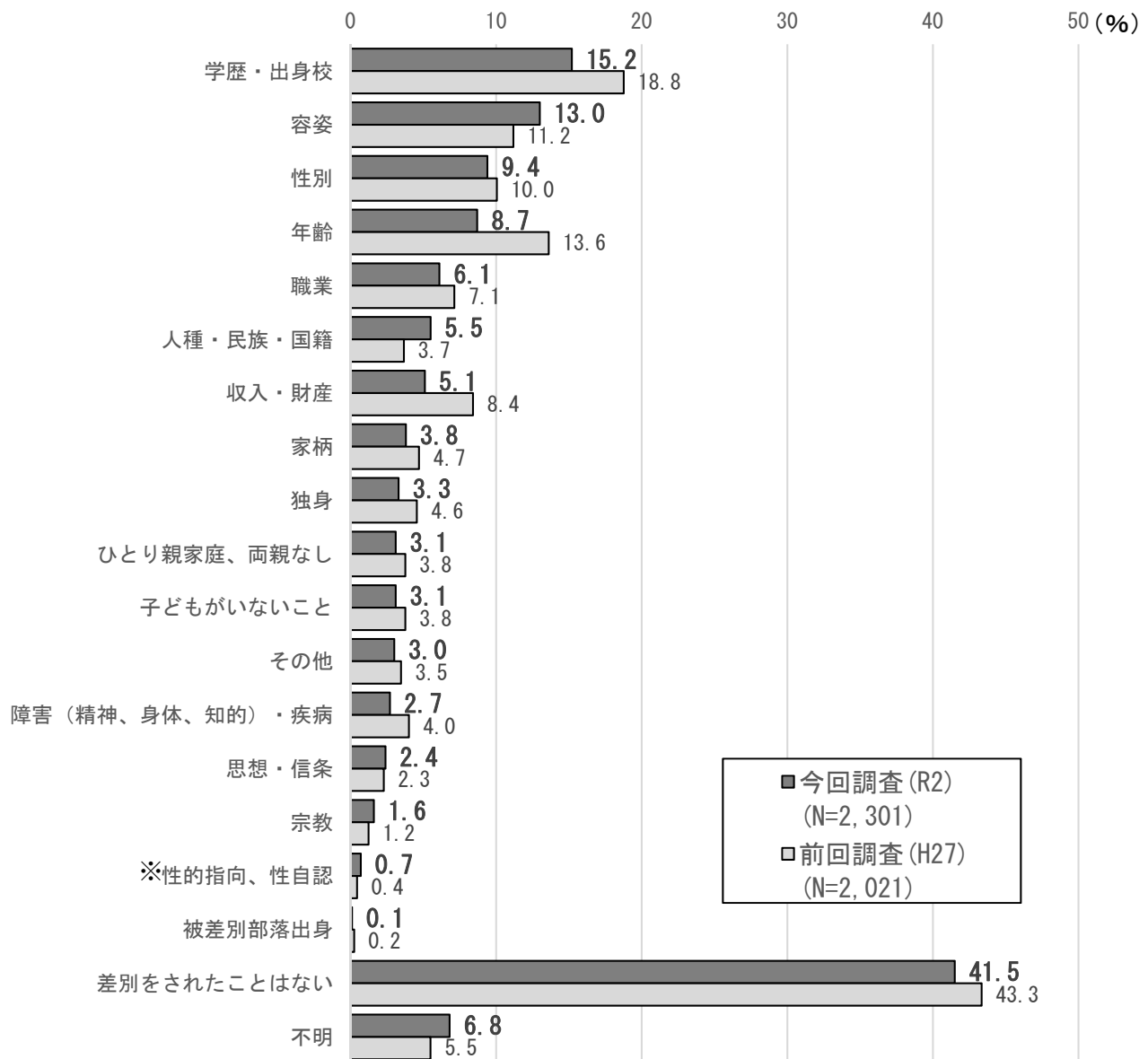
性別では、大きな傾向の差は見られない。

年齢別で見ると、差別をしたことがある場合、10・20歳代では「容姿」、30歳代から70歳代までは「宗教」、80歳以上では「人種・民族・国籍」が最も多くなっている。

◆ 差別された経験

自分がこれまでに、差別をされたと思ったことがあるか、ある場合、何について差別をされたかを尋ねたところ、「差別をされたことはない」が41.5%となっている。差別されたことがある場合は、「学歴・出身校」が15.2%と最も多く、次いで「容姿」が13.0%、「性別」が9.4%と続いている。

図Ⅱ—6—1 差別された経験[複数回答]



※ 前回調査では「いわゆるLGBT」

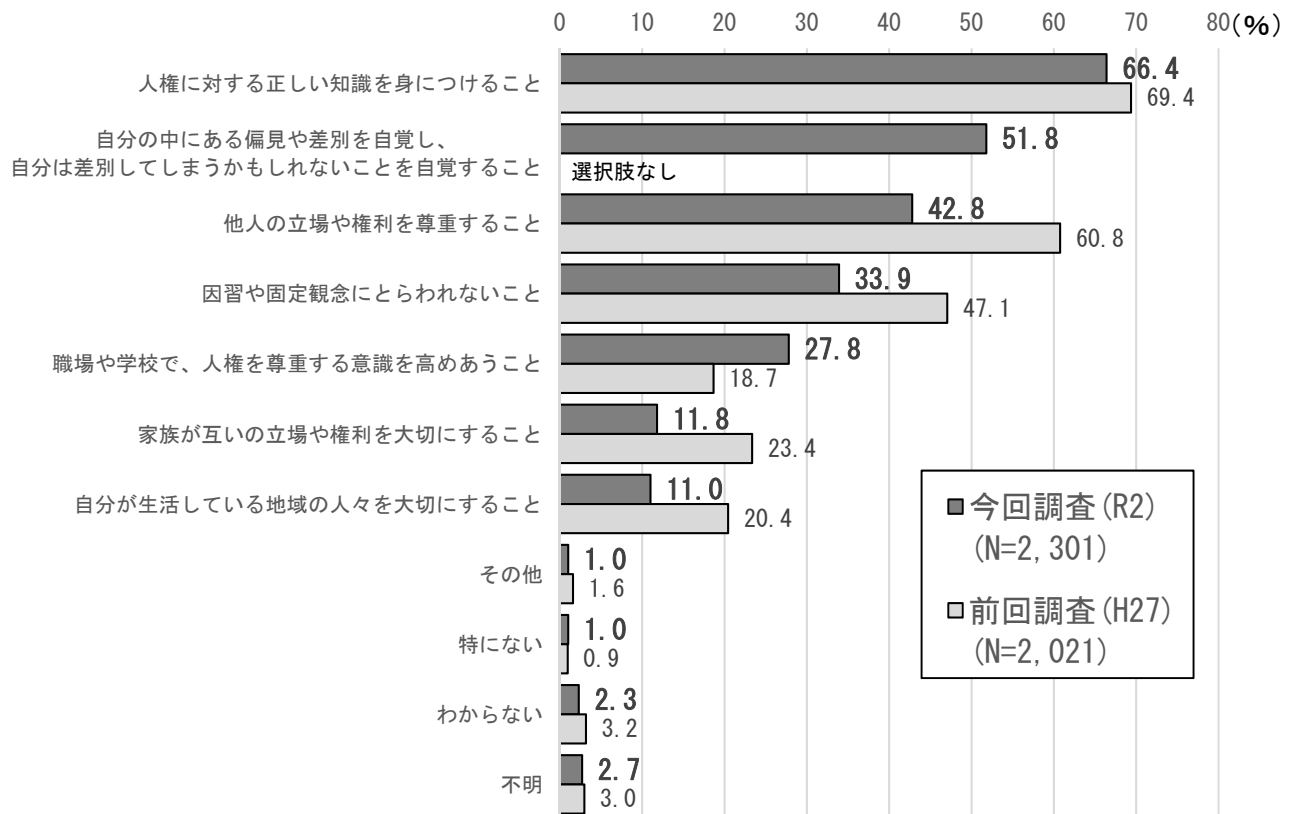
性別で見ると、「差別をされたことはない」は、女性より男性がおよそ7ポイント高くなっている。また、差別をされたことがある場合、男性では「学歴・出身校」が最も多く、「容姿」、「職業」の順となっている。一方、女性では「性別」が最も多く、「学歴・出身校」、「容姿」の順となっている。また、「性別」の回答は男性より女性が13ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、差別をされたことがある場合、10・20歳代と30歳代では「容姿」、40歳代以上では「学歴・出身校」の回答が最も多くなっている。

◆ 人権を尊重しあうための心がけや行動

市民一人ひとりが人権を尊重しあうために、心がけたり行動すべきこととして、どのようなことが求められると思うかを尋ねたところ、「人権に対する正しい知識を身につけること」が66.4%と最も多く、次いで今回調査で新たに設けた「自分の中にある偏見や差別を自覚し、自分は差別してしまうかもしれないことを自覚すること」が51.8%、「他人の立場や権利を尊重すること」が42.8%と続いている。

図Ⅱ—40 市民一人ひとりが人権を尊重しあうための心がけや行動[複数回答]



性別では、大きな傾向の差は見られない。

年齢別で見ると、全年齢層で「人権に対する正しい知識を身につけること」が最も多い。また、70歳代以下では、「自分の中にある偏見や差別を自覚し、自分は差別してしまうかもしれないことを自覚すること」が次いで多くなっている。